

# 明治前期下鴨村における歴史・神社・古跡・名勝の記録 —明治16年「郡村誌」調査—

東 昇

## 1 「郡村誌」の調査

本稿では、明治16年(1883)「郡村誌」調査により、当時の愛宕郡下鴨村の概略、歴史・神社・古跡・名勝がどのように記録されていたかを紹介する。「郡村誌」は、「皇国地誌」ともよばれ、明治8～18年(1875～1885)の全国的な地誌編纂により、各府県で作られている。明治政府、行政が主導して編纂した地誌調査である。この時期は、明治22年の大規模な町村合併以前であり、ほぼ近世村と同じ範囲の各村の多様な状況を、全国同じ基準で知ることができる貴重な史料である。

府内の「郡村誌」は、京都府立総合資料館に「京都府地誌」としてまとめられている<sup>1</sup>。愛宕郡の「郡村誌」については、すでに分析を行い統計地図<sup>2</sup>や上賀茂村の概略を解説した<sup>3</sup>。今回も上賀茂村と同様の手法により、まず「下鴨村の様子」として、村の地勢・田畑・戸数・人口・牛馬・舟車・川橋・学校・物産・民業などを、利用しやすいように現代語として紹介する。つぎに「歴史と神社」では、村の概略・管轄沿革・社・字地・古跡、「古歌の名勝」では、和歌に詠まれた名勝について、史料原文を引用した。

## 2 下鴨村の様子

- ・村の広さ 東西9町(1km) 南北16町(1.7km)
- ・府庁からの距離 京都府庁から東北、寺町通を經由し29町(3.2km)
- ・地形 平坦で南北に長い、竹林は東西南にある。賀茂川・高野川は南角で合流し水流は三叉となり、土地は鋭角である。東側に糺森があり、北は田圃が連なっている。輸送は便利であるが薪炭は充分ではない。
- ・地質のよしあし 色は赤紫、砂土交じり、干害に苦しむ。井戸を掘りわずかに稲田へ灌漑する。菜蔬と竹に適している(頭注「近年京都市の疏水が通じたので潤沢となった」)
- ・税地 田62町5反1畝8歩(62ヘクタール)、畑36町8畝18歩1厘1毛(35ヘクタール)
- ・戸数 本籍280戸(士族49戸 平民231戸)、寄留4戸(華族1戸 平民3戸) 社6戸(官幣大社1座 摂社5座) 総計290戸
- ・人口 男743口(士族95口 平民648口)、女822口(士族122口 平民700口) 総計1565口
- ・牛馬 牡牛13頭、牝牛1頭、牡馬7頭
- ・舟車 日本形舟3艘 石未満遊舟、人力車1輛、荷車14輛 小車、総計15輛
- ・川橋溝 賀茂川、高野川、泉川、御手洗川、鴨口橋(頭注「今は葵橋」)、鞍馬口橋(頭注「今は出雲路橋」)、中村溝
- ・森林 川合林、宮川林
- ・道路 鞍馬街道
- ・社 賀茂御祖神社
- ・学校 人民共立小学校 生徒男73人、女49人
- ・村会所 右小学校内
- ・古跡 野御所址、神館御所址、大壇所、東御塔、西御塔、ガンドガ芝、車道
- ・名勝 河合、糺森、御祖森、御祖原、川田原、七瀬川
- ・物産 菜種312石2斗、大根23940貫目(89トン)、蕪1248貫目(4.7トン)、菜類4608貫目(17トン)、茄子15000貫目(56トン)、芋2592貫目(9.7トン)、西瓜2050顆、製茶125斤、竹5800本、干藻<sup>カンテン</sup>2920貫目(10トン)
- ・民業 男農業142戸・雑業、女農業125人・雑業

## 3 歴史と神社

- ・村の概略

本村古ヨリ下賀茂社鎮座ノ地ニシテ、糺森或ハ鴨ト称シ前後変革ナシ<旧神官伝来ノ古図ニ、賀茂社ト樹木及ヒ河流ノ状ヲ画キ人家ヲ画カス、村落ヲナシタル年紀ヲ詳ニセス>

(史料本文の<>内は分かち書き、以下同)

・管轄沿革

古昔ヨリ賀茂社ノ神戸タリ<大<sup>(ママ)</sup>政官符曰、応以山城国愛宕郡捌箇郷奉寄賀茂大神宮事、四至東限延暦寺四至、南限皇城北大路同末、西限大宮東大路同末、北限郡界(是ハ上下賀茂宮総領ニ係ル)、御祖社肆箇郷、蓼倉郷、栗栖野郷、栗田郷、出雲郷ト>後戦国ニ及テ封域紊乱ス、徳川氏執政時ヨリ大聖寺宮・禅知院・上下賀茂社・北野社・花園氏・非蔵人・地下官人凡十六領ニ係ル、明治元年ヨリ漸次京都府ニ属ス

・社

賀茂御祖神社<式内官幣大社、村ノ東ニアリ、東西百四十八間南北三百九十間、面積三万五千三百二十五坪五合、祭神武津身命・玉依比賣命、官祭四月十五日、私祭四月十二日、明治四年官幣大社ニ列ス、縁起大約上賀茂別雷神社ニ同シ、境内喬木多シ、其幾星霜ヲ経ルヲ知ラス、山城志諸旧記ヲ引テ曰、賀茂御祖神社二座並名神大、月次相嘗新嘗、延暦四年十一月詔充愛宕郡封十戸、見続日本紀大同二年四月奉授正一位、弘仁十年三月勅准中祀俱、見日本後紀承和十一年冬禁汚社辺河水、又定社域四至、見太政官符仁壽二年七月遣使者奉幣祈雨即日得甘澍、文徳実録天慶五年四月始行幸、見中右記寛仁二年十一月奉愛宕郡蓼倉、栗栖、上栗田、出雲、四郷為神田、見于野府記及太政官符ト撰社五座小社宅神社、出雲井於神社、三井神社、貴布禰社、日吉社是ナリ、又波爾神社、御蔭社ハ境外ニ係ル(此上下賀茂神社ハ其位置ヲ異ニスト雖トモ、古ヨリ朝廷ヨリノ授位奉幣附領等ニ至リテハ、同途齋一ニシテ固ヨリ甲乙ノ品等ナシ、故二本誌ニ至リテモ事蹟両社ノ間ニ互録ス、彼ニ詳ニシテ是ニ略スルモノアリ)>

・字地(面積省略)

北浦<sup>キトロ</sup> 松ノ下<sup>オホツ、ラ</sup> 大尻<sup>オホツ、ラ</sup> ビハクビ<sup>カナクソ</sup> 道作<sup>ミツクダ</sup> トギデン<sup>カハアヒデン</sup> ミツクダ<sup>カハアヒデン</sup> 横枕<sup>ミスマダ</sup> 河合田<sup>ドウデン</sup> 三角田<sup>ミスマダ</sup> 御料田<sup>ドウデン</sup> 堂田<sup>ドウデン</sup> 山王塚<sup>ドウデン</sup> 膳部<sup>ドウデン</sup>  
田<sup>オホツ、ラ</sup> 大葛籠<sup>オホツ、ラ</sup> 三反田<sup>オホツ、ラ</sup> タ、ミ田<sup>オホツ、ラ</sup> トコロ田<sup>オホツ、ラ</sup> 畠田<sup>オホツ、ラ</sup> 丸田<sup>オホツ、ラ</sup> 狭間<sup>ツカメグリ</sup> 塚廻<sup>ツカメグリ</sup> 壹町田<sup>ツカメグリ</sup> 呉海本<sup>クレガイモト</sup> 岸本<sup>クレガイモト</sup> 泉田<sup>クレガイモト</sup> 不定田<sup>クレガイモト</sup> 長刀<sup>クレガイモト</sup>  
田<sup>オホツ、ラ</sup> 泉川<sup>オホツ、ラ</sup> 蓼倉畑<sup>オホツ、ラ</sup> 李<sup>オホツ、ラ</sup> 金屑<sup>オホツ、ラ</sup> 小辻<sup>オホツ、ラ</sup> 森ヶ前<sup>オホツ、ラ</sup> カイ廻<sup>オホツ、ラ</sup> 大荷海道<sup>オホツ、ラ</sup> 筋違畑<sup>オホツ、ラ</sup> 疲畑<sup>オホツ、ラ</sup> 高木<sup>オホツ、ラ</sup> 立岩<sup>オホツ、ラ</sup> 五ノ坪<sup>オホツ、ラ</sup> 四ノ坪<sup>オホツ、ラ</sup> 六<sup>オホツ、ラ</sup>  
反田<sup>オホツ、ラ</sup> 長袖<sup>オホツ、ラ</sup> マメ<sup>オホツ、ラ</sup> 蔵ヶ垣内<sup>オホツ、ラ</sup> 横田<sup>オホツ、ラ</sup> 柳<sup>オホツ、ラ</sup> 浄見田<sup>オホツ、ラ</sup> 蓮ヶ窪<sup>オホツ、ラ</sup> 鑓田<sup>オホツ、ラ</sup> 舟田<sup>オホツ、ラ</sup> 川付<sup>オホツ、ラ</sup> 明神<sup>オホツ、ラ</sup> 長田<sup>オホツ、ラ</sup> 芝本<sup>オホツ、ラ</sup> 門田<sup>オホツ、ラ</sup> 土居後<sup>オホツ、ラ</sup>  
鈴鹿淵<sup>オホツ、ラ</sup> アゴセ<sup>オホツ、ラ</sup> 鷲ヶ本<sup>オホツ、ラ</sup> 松田<sup>オホツ、ラ</sup> 一丁淵<sup>オホツ、ラ</sup> ウツロ<sup>オホツ、ラ</sup> クホ<sup>オホツ、ラ</sup> 石捨<sup>オホツ、ラ</sup> 下河原田<sup>オホツ、ラ</sup> 土屋造<sup>オホツ、ラ</sup> 貴布称田<sup>オホツ、ラ</sup> 四反田<sup>オホツ、ラ</sup> 野口<sup>オホツ、ラ</sup> 鶴首<sup>オホツ、ラ</sup>  
溝<sup>オホツ、ラ</sup> マタゲ<sup>オホツ、ラ</sup> 二畝丁田<sup>オホツ、ラ</sup> 梶田<sup>オホツ、ラ</sup> 高坏<sup>オホツ、ラ</sup> 小目田<sup>オホツ、ラ</sup> 茶の木下<sup>オホツ、ラ</sup> 椀田<sup>オホツ、ラ</sup> 荒田<sup>オホツ、ラ</sup> 角田<sup>オホツ、ラ</sup> 寄合田<sup>オホツ、ラ</sup> 堂ノ前<sup>オホツ、ラ</sup> 火打田<sup>オホツ、ラ</sup> フジ<sup>オホツ、ラ</sup> 尻細<sup>オホツ、ラ</sup>  
陰<sup>オホツ、ラ</sup> 陽師田<sup>オホツ、ラ</sup> 大工田<sup>オホツ、ラ</sup> 間部<sup>オホツ、ラ</sup> 土器田<sup>オホツ、ラ</sup> 高ノ手<sup>オホツ、ラ</sup> ゴスデン<sup>オホツ、ラ</sup> チサガ垣内<sup>オホツ、ラ</sup> 神子田<sup>オホツ、ラ</sup> 梅ノ木<sup>オホツ、ラ</sup> 猪ノ尻<sup>オホツ、ラ</sup> 檜皮田<sup>オホツ、ラ</sup> 忌子田<sup>オホツ、ラ</sup>  
狭間<sup>オホツ、ラ</sup> 獅子塚<sup>オホツ、ラ</sup> 福蓮寺<sup>オホツ、ラ</sup> 土ヶ鼻<sup>オホツ、ラ</sup> 西河原<sup>オホツ、ラ</sup> 上河原<sup>オホツ、ラ</sup> 下河原<sup>オホツ、ラ</sup> (頭注 一之塚<sup>オホツ、ラ</sup> 二ノ塚<sup>オホツ、ラ</sup> 石城<sup>オホツ、ラ</sup> 寄合塚<sup>オホツ、ラ</sup> ガンドガシバ<sup>オホツ、ラ</sup>)

・古跡

野御所址 賀茂本宮ノ西ニアリ、斎院御所ノ旧址ト云、四履詳ナラス下同シ  
神館御所址 村ノ南ニアリ、此殿ハ内親王毎年四月賀茂祭ノトキ清服ニ更ヘラル、ノ所ト云(頭注「今字クワンシヤ、アリ」)  
大壇所 本宮ノ東南ニアリ、相伝フ古昔壇ヲ築キ、天地神祇ヲ祭ル所トス(頭注「オダゴロート云」)  
東御塔 遺趾詳ナラス、百練抄日大治三年七月廿日太上天皇、供養鴨御祖社東御塔ト  
西御塔 村ノ北ニアリ、今民家トナル、百練抄日天承元年十月十日待賢門院賀茂下社御塔供養ト  
ガンドガ芝 村ノ西北ニアリ、昔廟堂ノ址ト云、其南ノ田ヲ堂ノ前ト云  
車道 今ノ字楯形ヨリ北堤側ニアリ、天<sup>(元カ)</sup>禄七年葵祭ノ時勅使ノ車ヲ牽ク所ト云(頭注場所不明「僧堂、薬師」)

4 古歌の名勝

・名勝

河合<sup>カハヒ</sup> 賀茂川・高野川会流ノ所故ニ河合ト称ス、古歌ニ詠出スル者多シ  
糺森<sup>タメスノモリ</sup> 河合ノ近傍ヲ称ス、相伝フ不浄ヲ糺スノ義ナリト  
御祖森 賀茂本宮ノ地ナリ  
御祖原 本宮北方ノ田野ヲ称ス  
川田原 泉川ノ辺ヲ称ス  
七瀬川 鴨川・宮川(天平十五年聖武天皇鴨川ヲ改テ宮川ト名ケラル、今四条ヨリ五条迄ノ河東ヲ宮川町ト称ス、是其遺称ナリ)羽川詳ナラス、石河瀬見小川・月輪川(一名比良木川、一乗寺村ニ其名称アリト云モ今詳ナラス)御手洗川(川ノ部ニアリ)大井川(詳ナラス以上皆古歌ニ詠出ス)

下鴨村の「名勝」は、6ヶ所、七瀬川を個別に数えると12ヶ所となる。河合、七瀬川に「古歌ニ詠出ス」とあるように、いずれも和歌の名所とある。同じ愛宕郡内で名勝が記載されるのは、吉田「日降坂」・長谷「八塩岡」・野「小鍛冶實盛砧石」・草生「朧清水、ミギハノ櫻・ミギハノ池、落合瀧」・来迎院「呂津川、世和井水、鉦捨藪、熊谷腰掛石」・鞍馬「涙ヶ瀧、天杓杉」・貴船村「鏡岩」の7村14ヶ所である。郡内で比較してみると、下鴨村の名勝がいかに多いかがわかる。

この「郡村誌」の基準となった明治8年6月5日太政官より各府県に出された「皇国地誌編集例則」によると、名勝「某山。(村ノ何方ニアリ。風景絶奇。或何々ヲ以テ称セラル等ノ類。)」とある<sup>4</sup>。名勝は、山などの風景がきわめて珍しいこと、称えられることが条件となっている。「洛陽名所集」に登場する下鴨の「御手洗・瀬見小河」の近世の名所は、明治期の行政編纂の地誌にも「名勝」として記録されていたといえる。

(本内容の一部は、京都府立大学 ACTR (地域貢献型特別研究)、2013年度「京都地域情報・文化遺産データベースのコンテンツ作成と活用」(代表東昇)の研究成果である)

---

<sup>1</sup>「京都府庁文書」、愛宕郡については「村誌」愛宕郡1～3。

<sup>2</sup>東昇「京都地域情報・文化遺産データベースの展開と活用―「郡村誌」と愛宕郡統計地図―」同編『京都地域情報・文化遺産データベースの展開・活用―「郡村誌」の地図化と二ノ瀬・岡崎を事例に―』2014年、1～9頁)。

<sup>3</sup>東昇「「郡村誌」からみた明治16年(1883)頃の上賀茂村の様子」藤原英城編『現代版『京童』へのアプローチ：「国際京都学」研究における京都府立総合資料館所蔵古典籍活用の可能性』京都府立大学文学部、2014年)。

<sup>4</sup>東昇「明治前期「村誌」の情報化」京都府立大学文化遺産叢書3『八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図―地域文化遺産の情報化―』2010年、185頁。